

参 考 資 料

高等学校における「キャリア・パスポート」の指導と活用について

高校は学科も多様であり、設置形態を見ても全日制課程、定時制課程、通信制課程などがあります。また、同一の学科であっても、その実情は学校ごとに違うと言えるでしょう。よって、「キャリア・パスポート」の指導や活用においては、義務教育段階よりもさらに学校ごとの裁量の余地が大きくなるものと考えられます。また、現時点では、高校で作成した「キャリア・パスポート」を大学等の上級学校や就職先等に引き継ぐことは想定されていません。そのため、なぜ高校で「キャリア・パスポート」の指導や活用を継続すべきなのか、疑問に思う先生方もいらっしゃることでしょう。しかし「キャリア・パスポート」の導入の目的を鑑みれば、その重要性と必要性を再確認できるはずです。

「キャリア・パスポート」の目的には、①生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成の過程を見通したり振り返ったりして、自己評価に役立てること、②教師にとっては、生徒と対話的に関わり、一人ひとりの自己有用感の醸成や自己変容の評価を支援する手立てであること、があります。つまり、「キャリア・パスポート」の活用は、生徒が自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育てていくための効果的な方法であり、将来にわたる本質的な学びを支える柱を育成するものであるとも言えます。各学校において、目の前の生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にし、その育成の一助となるような「キャリア・パスポート」の指導と活用が望ましいと考えられます。

「キャリア・パスポート」の活用については、行事や学びの際のシートの記入とその蓄積のみになりがちですが、大切なのは、記入されたシートとシートをつないでいく活動です。ホームルーム活動においてこれらをつなぎあわせることで、学校の教育活動全体がつながり、生徒は点と点がつながった教育活動全体を通して自らの成長(これまで)を客観的に捉え、将来(これから)を見通すことができるでしょう。このような活動をしっかりと行うかどうか「キャリア・パスポート」の価値に大きな影響を与えることは言うまでもありません。シートの記入に関しては、朝の SHR 等の短い時間で行い、点と点をつなぐ活動にぜひ時間を割いていただきたいと思います。

生徒たちが、自分で何ができるようになったかを把握することは、自分という存在を肯定するための大事な要素です。この「キャリア・パスポート」は、生徒一人ひとりが自分自身の成長を記録し認めることで、過去から続く今の自分を、将来の自分へとつなげ、夢や希望をもって生きていくための底力になるものです。この「キャリア・パスポート」の記入に際しては、生徒が自分を大きく見せたり他人の目を気にしたりせず、ありのままの自分を記録できるように支援し、書けない生徒がいたとしても、その現状を受けとめ、振り返って、書けなかった自分がどう変容していくのかを見取らせることが大切です。教師が「必ず書きなさい、〇行以上書きなさい」などと指示せず、書けなかった空欄に対しても継続して対話的に接することで、生徒の変化を見取りましょう。

「キャリア・パスポート」の活用を通して、私たち教師も生徒との関わり方を振り返り、生徒の状態を共有し、見通しを持って生徒と接する教師集団となり、よりよい教育活動ができることを願っています。

「キャリア・パスポート」を活用した授業例①

- (1) 高等学校 特別活動
- (2) 1学年 ホームルーム活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」
ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解
- (3) 題材「これまでの「キャリア・パスポート」を他者に紹介し、自分自身の成長を再認識する」
▶取り組みを通して、これまでを振り返ながら自己を見つめ、将来に関する考えを深めることの大切さを理解する。振り返りで気づいたことをもとに、新たな学習や活動に主体的に取り組むことができるようにする。
- (4) 事前の指導（活動）
▶クラス内の人間関係づくりを行っておく。（他者を考えや意見を受け入れる雰囲気づくり）
▶小・中学校時に作成した「キャリア・パスポート」を見返し、クラス内で紹介する内容等の準備をさせる。
- (5) 本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	<p>▶ねらい「これまでの「キャリア・パスポート」を他者に紹介し、自分自身の成長を再認識する」について確認</p> <p>▶これから行う活動の流れについて確認</p>	<p>▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。</p>
展開	<p>▶小・中学校時に作成した「キャリア・パスポート」をもとに、グループ内で、「これまでに自分なりに努力してきたこと」など、各自の成長や変容を発表し合う。</p> <p>▶クラスメイトのコメントや、クラスメイトの発表で感じたことや考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>▶時間内でグループを組み直すなど、できるだけ多くの生徒の発表を聞くことができるよう工夫する。</p> <p>▶振り返りを通して、自己理解や他者理解、新たな人間関係の構築につなげる。</p>
終末	<p>▶「高校生のみなさんへ」や「〇〇高等学校のみなさんへ」を読み、高等学校においてさらに伸ばしたい力を意思決定すると共に、高等学校で「キャリア・パスポート」を作成することの意義を再確認する。</p>	<p>▶高等学校において、授業やさまざまな行事等を通してどのような力を伸ばしたいかを意思決定させる。</p>

- (6) 事後の指導（活動）
▶「一年を見通し、振り返る」様式の【見通し】や、「学期を見通し、振り返る」様式の【見通し】についてまとめる。
- (7) 実施時期について
▶入学後、クラス内の人間関係が一定できた4月中旬以降を想定しているが、4月に「仲間作り合宿」などの取組がある学校については、合宿中のプログラムの1つとして行うことも考えられる。

「キャリア・パスポート」を活用した授業例②

- (1) 高等学校 特別活動
- (2) 2 学年 ホームルーム活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」
エ 主体的な進路の選択決定と将来設計
- (3) 題材「自己理解を深め、進路について考える」
▶自分自身の興味・関心などの個性を理解した上で、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。
- (4) 事前の指導（活動）
▶これまで作成した「キャリア・パスポート」をもとに、今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等を自己評価する。
- (5) 本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	<p>▶ねらい「自分を知り、進路を見直す」についての確認 （これまでの「キャリア・パスポート」を整理し、自分の興味関心等の個性を理解し、自分の将来の生き方や生活について見通しをもち、進路選択を行う。）</p> <p>▶この活動をもとに三者面談を行うことについての確認</p>	<p>▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。</p>
展開	<p>▶これまでに作成した「キャリア・パスポート」（「学期を見直し、振り返る」「学校行事」等の様式）をもとにグループで発表し合い、相互評価を行う。さらに、生徒自身が行うプレゼンテーション（「私のプレゼンテーション」）の原稿を作成する。</p> <p>▶作業途中で各 2 分間のプレゼンテーションの練習をする。 （グループで発表し合い、相互評価をくり返す。）</p>	<p>▶取組がうまく進んでいない生徒に対して、教員が個別の支援を行う。</p>
終末	<p>▶（これまでの「私のプレゼンテーション」の作成や話し合い活動を通じて）二者面談や三者面談という進路選択の場面向けた決意と具体的な進路への目標設定を意思決定する。</p>	

- (6) 事後の指導（活動）
▶【「生徒が話す三者面談」】「キャリア・パスポート」を活用して、まとめた今学期の自分自身の成長や今後の方向性（自分自身の進路や進路実現に向けた具体的な手立てを含む）等について、面談の中でクラス担任、保護者にプレゼンテーションを行う。
▶面談中に感じたことや考えたことを踏まえ、次の「学期を見直し、振り返る」様式を作成する。
- (7) 実施時期
7 月中での実施を想定している。（2 年次に限らず毎学年実施することもある。）
また、上記の授業例をもとに、次のような取組も考えられる。
例：「生徒が話す二者面談」
作成した「キャリア・パスポート」をもとに、自分なりに取り組んできたことやこれから取り組もうと考えていることについて、クラス担任に対して生徒が自分の言葉でプレゼンテーションを行う。

「キャリア・パスポート」を活用した授業例③

- (1) 高等学校 特別活動
- (2) 3 (4) 学年 ホームルーム活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」
エ 主体的な進路の選択決定と将来設計
- (3) 題材「小学校から高等学校までを振り返り、自分自身の今と将来を考える」
▶これまでや現在の自分を振り返り、自己の興味・関心や適性を把握するとともに、将来の生活における職業人、家庭人、社会の形成者などとしての活動等について考え、人生や将来の生活を具体的に描く。
- (4) 事前の指導（活動）
▶小・中学校、高等学校においてこれまでに作成した「キャリア・パスポート」を見返し、改めてこれまでの自分の「足跡」を整理し直す準備をさせる。
▶社会への貢献の仕方や将来の生き方のヒントとなるような参考資料（新聞記事や書籍等）を事前に各自で収集させる。
- (5) 本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	<p>▶ねらい「小学校から高等学校までを振り返り、自分自身の今と将来を考える」について確認</p> <p>▶これから行う活動の流れについて指示</p>	<p>▶多様な考えや意見を受け入れ、尊重し合う雰囲気をつくるため、相手の意見を否定しないといった「グランドルール」を確認する。</p>
展開	<p>▶小・中学校で作成した「18歳の私へ」様式を読み返し、感じたことや考えたことを個人でまとめる。</p> <p>▶小・中学校、高等学校において作成した「キャリア・パスポート」をもとに、「小学校から高等学校までを振り返る(1)」様式を活用し、グループで発表し合う。</p> <p>▶事前に各自で収集してきた社会への貢献の仕方や将来の生き方のヒントとなるような参考資料も活用しながら、自分自身の将来についてグループで話し合う。</p>	<p>▶自己実現につながる意思決定としての取組であることを意識させる。</p>
終末	<p>▶グループ内における話し合い活動で感じたことや考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>▶振り返りを通して、さらなる自己理解や他者理解につなげる。</p>

- (6) 事後の指導（活動）
▶作成した「小学校から高等学校までを振り返る(1)」様式の内容をブラッシュアップし、進学・就職に向けた**志願理由書等を作成する**。
- (7) 実施時期について
卒業年次の7月ごろを想定している。

「キャリア・パスポート」を活用した授業例④

(1) 高等学校 特別活動

(2) 3 (4) 学年 ホームルーム活動 (2) 「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」
ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

(3) 題材「高校3年間を振り返り、自分自身の成長と今の自分を見取る」

▶高校3年間の「キャリア・パスポート」を見返し、そのときどきの等身大の自分を把握する。また、それら点の姿をチャートを用いてつなげ、自分自身の成長を見取れるようにする。その際、不安やできないことがある自分も否定せずに認めることが大切である。

(4) 事前の指導 (活動)

▶高等学校においてこれまでに作成した「キャリア・パスポート」を見返し、自分のやってきたことを整理させておく。

(5) 本時の学習過程

	児童生徒の活動	指導の留意事項
導入	<p>▶ねらい「高校3年間を振り返り、自分自身の成長と今の自分を見取る」の確認。</p> <p>▶本時の流れを確認。</p>	<p>▶自分自身の振り返りを行うにあたり、等身大の自分を認めることが大事であることを確認する。</p>
展開	<p>▶3年間で作成した「キャリア・パスポート」をもとに、ワークシートを活用して振り返りを行う。</p> <p>▶活動3については、1. 2のマトリクス、チャートを利用して、自らのいいところだけではなく、できていないところや欠点、これからどう改善しようと思っているかなど、一見マイナスな部分についても素直に認めて自己PRに生かす。</p> <p>▶グループ内で自己PRを発表する。</p>	<p>▶活動3において、自己PRを文章で書けない場合には、マトリクスやチャートを参考に、バタフライチャートのようなシンキングツールなどを利用し、いいところ（強み）と欠点（弱み）を対峙して把握させてから活動に移るなど、生徒の中身の文章化がうまくいくような支援が必要。</p> <p>▶支持的風土を保つ。</p>
まとめ	<p>▶グループ内での発表後、感じたことや考えたことをワークシートに記入する。</p>	

(6) 事後の指導 (活動)

▶この活動が高校生活最後の「キャリア・パスポート」になると考えられる。ただ、活動時期を早めすることで、この活動をもとに志望理由書等を作成する活動につなげることができる。

(7) 実施時期について

▶卒業年度の1月～2月を想定しているが、この活動を志願理由書にむけた活動としたいときには2学期に実施も可能である。しかし、あくまでもこの活動の目的は志願理由書を書くことではなく、高校3年間の自らの成長を見取ることであるので、他の「キャリア・パスポート」の記入が済んだ後が望ましい。

自己分析を次のステップに生かそう

高校3年間のキャリア・パスポートを参考に自己分析をしてみよう。

1. 下のマトリクスを完成させよう。エピソードや学んだことはできるだけ詳しく書くようにしよう。

	エピソード・できごと	学んだこと	該当学年
<u>学習に関すること</u> ・毎日の授業 ・テスト ・課題 等			
<u>行事／特別活動に関すること</u> ・学校行事 ・LHR 活動 ・部活動 等			
<u>ボランティア活動に関すること</u>			
<u>他者との関わり</u> ・クラスメイト ・先生方 ・部活の仲間 等			
<u>熱中していたこと</u> 一生懸命だったこと			
<u>後悔していること</u> <u>やり直したいこと</u>			
<u>一番大切なこと</u> <u>感動したこと</u>			

2. 1. のマトリクスを参考に、長所や欠点を整理し、下のチャートを完成させよう。

長所

1年 3年

欠点・不安・できなかったこと

3. 3年間の振り返りをふまえて、自分をPRしてみよう。3年間で身についた能力やいいところだけではなく、不安なことやできていないことなども素直に書いておこう。そして、その不安やできないこととどう向き合っていきたいかも記録しておこう。

先生からのコメント